# 大北地区賛助会　会報156号

令和５年３月１６日　発行

＊QRコードをスマホで読み取れば以前の会報もスマホで見られます

大北地区賛助会　Tel：0261－23－6507

公益財団法人 長野県長寿社会開発センター

２月10日現在　賛助会員数　大北地区　１４５名・県全体　１６００名

## 大北地区賛助会会長　挨拶

高田　武

会員の皆様には、日頃のご健勝をお喜び申し上げます。昨年５月の総会でご承認いただいた令和4年度大北地区事業計画は、環境の厳しい折でしたが、幹事会役員の皆さんのご協力で進めることができました。お陰様で予定の事業はすべて実施出来ましたのでご報告いたします。

さて、長寿社会開発センター本部の特別プロジェクトで作成された対策案『今後に向けた提言』は、賛助会活動をより楽しいものにして、賛助会会員の減少傾向を改善していく為のものでした。

この対策案を受けて、各地区賛助会は１年目の活動を全身全霊で取組み始めましたが、各地区により手法の違いはあるものの、今までの賛助会体質の改善は、一朝一夕には変わるものではなく、継続して活動していくことで成果が生まれるものと思います。

又、大北地区賛助会では本部からの提言を受けて、４項目の目標を掲げて進めました。

1)地域と交わる活動　　：地域ボランティア団体との交流活動を各地で実施
2)シニア大学生との交流活動：２年生の授業時間で賛助会活動をﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ
3)各グループの事業計画紹介：賛助会報に各グループの活動計画を載せて認識する
4)高齢者の情報技術の向上　：スマホ講習でレベルアップ

今年は改善案を皆さまと共に実行した１年目でしたが、成果をしっかり出すためには引き続き２年目もチャレンジする予定です。皆様のお力を借りて活動を進めてまいります。また、楽しさを感じる活動や社会との連携を築くための広報・ＰＲ活動においても、積極的に進めます。

最後に、会員の皆さま方のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げて、今年度終りのご挨拶と致します。

## 幹事会活動報告

第6回幹事会　11月17日大町合同庁舎
1　賛助会報155号袋詰
2　信州りらく秋号袋詰
3　会員講座11/25
4　中信地区賛助会懇談会11/29
5　シニア大学講座、賛助会活動照会11/30
6　その他

第7回幹事会　1月13日　大町合同庁舎
1　春のスポーツ交流会　3/10開催
2　賛助会報第156号について
3　地区賛助会協議会（オンライン）　11/30
4　次年度事業計画
5　シニア大学第41期生卒業記念誌
6　令和5年度シニア大学学生募集
7　その他

第8回幹事会　2月17日　大町合同庁舎
1　春のスポーツ交流会
2　賛助会報第156号
3　地区賛助会協議会報告
4　次年度事業計画
5　その他

## 活動報告

### 令和４年度「中信地区賛助会懇談会」に参加して

松川グループ　松田昌弘

令和4年11月29日（10時～12時）に、松本合同庁舎において中信地区賛助会懇談会が、松本地区賛助会担当で開催されました。当日は、36名（松本地区14名・木曾地区7名・大北地区15名・松倉本部事務局長・朝倉支部事務局長）が参加され開催されました。

先ずは、松本地区賛助会会長小林様、副会長の小岩井様に引き続き本部事務局長松倉様の挨拶で始まりました。その後本日の参加者の自己紹介が、松本、木曾、大北地区の順にされ、懇談が開始されました。松倉本部事務局長様から長寿社会開発センターの目的と賛助会については、飯伊地区作成のまとめを活用して説明されました。

今後の検討事項としては、シニア大学生との関係とシニア大学の見直しと広報の充実（阿部知事を前面に押し出す）を検討していく考えであるとの事でした。その後各地区から資料を基にして現状と活動報告並びに問題点、課題の説明がありました。共通事項としては、会員の高齢化、減少でした。木曾地区では、会員の高齢化と退会者の増で活動グループが解散し現在の会員は、36期生以降の方々がほとんどです。ただ36期生以降の方々大部分の卒業生が賛助会に入会しています。特に40期生の方々は、全員が賛助会に入会しています。6～7の活動班ができ、グループラインで各班の活動を報告したり、奥原活動推進員さん、竹脇シニア活動推進COさんが各活動に可能な限り顔を出したり、帯同しています。ここに会員増強のヒントがあると思います。この後、各地区より会報の発行と会計処理について、現状報告がありました。

この様な地区賛助会の懇談会は、他地区では行われていないようです。他地区の活動状況や、問題点、課題が共有でき、懇談会に参加出来て良かったです。

### 「中信地区賛助会懇談会」に参加して

大町グループ　大西彰子

11月29日（火）松本合同庁舎に於いて松本、木曾、大北支部の賛助会懇談会が38名の参加で開催されました。大北支部は小谷白馬、松川、池田、大町から15名大勢の参加でした。

コロナ禍とあって開催時間も10時から12時までと短時間の中、どこまで活動が出来るかと心配でした。本部からの連絡説明のあと各支部からの報告、今後の問題点や疑問については会報発行、会計処理、地区賛助会役員組織について短時間の中で自由懇談が進められましたが、制約された時間の中での意見交換、もっと時間があったらと残念に思われました。

どこの支部でも一番の難問題になっているのは会員の減少をどうするかでした。そんな中貴重な意見を出されていた木曽支部の発言には今後の活動に参考にできると感心しました。地域性はあると思いますが、発言された中で本年度シニア大学卒業生全員が賛助会に入会されたと聞いて、参加していた会員とどの様な方法でと考えさせられました。答えは、シニア大学でのグループ活動をそのまま移行されての発表に今後の活動に参考になればと聞く中で、特に役員参加者が全員女性であった点も懇談会の大きな収穫でした。

大北支部の活動では会報など配布物を手渡ししている事が評価されました。配布に訪れた先で、色々な会話をすることも会員減少の歯止めになるのではと思っています。

他支部のような活動を直ぐ実践できずとも、まずシニア大学生への参加を勧めたいと思います。

## 賛助会へ加入のお勧め

白馬小谷グループ長　伊藤佳寿美

大北地区賛助会では会員の増強と会の活動の周知を目的に11月30日大町合同庁舎で開催のシニア大学大北学部二年生の講座日に、授業の合間に1時間を空けていただき賛助会の活動内容の説明を行い受講生が卒業後に会への加入に勧誘を行いました。

今年度の二年生は第41期生34名と聞きました。私は節目の30期生で53名の卒業生でした。当日講堂に入室したとたん私が学んだ十年前と変わらぬ雰囲気が有り懐かしさが彷彿しました。

説明会は初めに高田会長により大北支部の活動や事業の内容について詳しく説明が有り、その後各グループ長四名による各グループの特徴や重点活動を限られた時間内で懸命に報告しました。
又サークル活動の「歴史サークル」「そば打ちサークル」「おとはこ」の代表者が活動の魅力や生甲斐を伝えました。

シニア大学で学ぶ目的は「新しい仲間作り」「知識や教養の向上」「地域社会への貢献」等これからの豊かな人生を送る機会だと思います。賛助会の活動もシニア大学で学ぶ目的と同様です。
人生一生勉強です。

私達賛助会の活動報告を真剣に聴講いただいた受講生が卒業後一人でも多く賛助会に加入を期待して説明会を終わりました。

## シニア大学生への「賛助会活動の説明会」について

池田グループ　竹内清隆

シニア大学 2学年34名の方々に、11月30日午前11時より大北地区、各グループの活動についての説明と、活動参加の呼びかけを行いました。
賛助会へはシニア大学を卒業後に加入される方が多いという現状。さらに11月29日に松本合同庁舎で開催された「中信地区賛助会懇談会」で、木曽地区での会員構成の実態（注：参照）を聞きそれぞれのグループ長・担当者は説明に熱が入りました。

当日は① 大北地区全体の活動説明
② 各地区グループ長の挨拶、そしてグループ活動の説明
③ サークル紹介「大町地区の歴史探索サークル」「35そば打ちクラブ」「おとはこ」の説明を行いました。

私はひな壇からシニア大学生の皆さんの反応を見させていただきました。非常に熱心に、興味深げに聞かれていて良い反応を受けました。説明が終了後、三名の方から「歴史探索サークル」への加入申込書が届いたと聞かされました。

今後も皆さんと一緒に、賛助会への加入を促していきたいと思います。皆さんもよろしくお願いします。

(注) 木曽地区は、現在会員73名のうち、60名が令和元年から令和3年の3年間の卒業生であること。令和元年度卒業生は27名のうち25名が加入。
令和2年度卒業生は20名のうち19名が、令和3年度は16名卒業生全員が加入との実態を聞き、全員が驚きました。

## 令和４年度、第２回地区賛助会連絡協議会について

令和５年１月30日実施　於、大町合庁
大北地区出席者: 石川事務次長、佐藤コーディネーター、浅原推進員、高田(記録)

オンラインにより、本部主催の第二回地区賛助会連絡協議会が１月30日開催されました。
今年は本部の「賛助会員グループ活性化検討会(特別プロジェクト)」の 『今後に向けた提言』を実行する初年度に当たる年になります。今回の会議はその進捗状況をウオッチする会議でもあり、議題に従い次の項目が検討された。

1)　長寿社会開発センターの五年度事業計画の説明
五年度事業報告の中で、1億4500万円の事業費が計上されたが、会員減少に伴い前年度比330万円(2.2%)減となり厳しい。他

**2)　長寿社会開発センター本部の初年度の取り組みについて**
特別プロジェクトの提言による取組み結果は自己評価ながら、ある程度できたこと、不充分だったこと、など様々だった。
センターは、賛助会と共に個々の会員やグループが自分たちの思うように、自由に楽しく社会とつながり、活動できるように支援する立場であることを、強調していました。

**3)　県下各地区賛助会(10地区)の初年度取り組みについて**
各地区賛助会からは地区ごとに年間報告や提案があり、大変参考になりました。

大北地区賛助会からは、次の報告を行いました。
本部の特別プロジェクト提言を受けて、初年度の目標を当初4項目掲げて活動しました。
①地域の人と交わる活動も、賛助会活動と共に併せて行う。
②シニア大生に賛助会活動への理解を深めてもらい、その為には交流機会を増やす。
③大北地域に有る４グループの年度計画を賛助会会報に載せ、お互いに認識する。
④スマホ等情報技術に前向きに取り組む気持ち・姿勢を持ち、生活に活用したい。
一年間の活動の結果、思うような成果を出す迄には至らず、継続して二年目も挑戦する必要がありますので、幹事会役員の皆さんと相談をしながら、一生懸命頑張ります。

# 行事報告

## 会員講座感想文「鎌倉幕府と仁科氏の関わり」

大町グループ　　伊藤　武

荒井今朝一先生の講座「鎌倉幕府と仁科氏の関わり」は一連の仁科氏研究シリーズの最終章とも云える講座でした。数回の講座を通して、仁科氏が大町市に館を構えたのは平安時代の頃で、木舟城の造営や水利を整備するなど、大北地区の改革を行い、郷土の発展の礎を築いた稀有な一族であった事がうかがえました。

今回の講義では、木曾義仲氏に従って京に上り京都御所を警護するなど重要な役目を担当した様ですが、幕府に対立して残念な結果となりました。
しかし、残された後継者によって大町市などに京都につながると思われる名称や文化財が残っており、今でも見られる事は大変ありがたい次第です。
我々はこうした遺構や文化を末永く伝えて行く使命を強く感じずにはおれません。

## 「鎌倉幕府と仁科氏の関わり（承久の乱と仁科盛遠）」

白馬、小谷グループ　柏原武幸

去る11月25日、会員講座が開かれ今回も荒井今朝一先生の講座で興味深く聴講しました。
初年度は「佐々成政と厳冬期　北アルプス越え」令和元年は「仁科神明宮と棟札からみた仁科氏」2年度は仁科氏の最後とその末裔たち」3年度は「木舟城のひみつ」で今回は「承久の乱と仁科盛遠」でした。
今回も素晴らしいカラー刷りの26ページの資料をもとに若くして散った盛遠の生涯についてとうとうと語られました。
大町を中心に安曇郡を支配されていた仁科氏は、戦国時代末には武田氏の配下となり、信玄によって当主仁科盛政が切腹させられ、信玄の五男、盛信（後の盛遠）が相続した。それから10年もしない天正10年織田信忠の大群と伊那高遠城で戦い壮絶な戦死をとげられた若き（26歳）武将の講話でした。
承久の乱（1221年）は、鎌倉時代　後鳥羽上皇の挙兵によって起きた合戦で、信州はほとんどが鎌倉幕府（北条義時）方についたが、仁科盛遠と大妻兼澄（梓川）は上皇方について戦う。上皇方は軍勢を差し向けるが集まらず、越中砺波山での戦いで敗戦、盛遠等は敗走。幕府は後鳥羽上皇を隠岐島に流布し加担した公卿を粛正した。
（ちょうど、令和2年10月に隠岐へのツアーがあり行ってきました。海士町の後鳥羽院資料館はじめ遺跡を見学し都の文化をなど教えた上皇が島民にいかに愛されていたかと、ガイドさんからお聞きし懐かしく思い出しました。）
今まで講話の内容が大町中心でしたが、仁科氏は小谷の千国の庄、澤渡氏、飯森氏や平倉城、根知城まで支配が及んでいたようで交通の便の悪い北の地域まで統治は大変だっただろうと思われました。

# トピックス

## 長野県シニア大学大北学部卒業式

長野県シニア大学大北学部の令和４度卒業式が２月８日、大町市の県大町合同庁舎で開かれ、第４１期生計３４人が２年間の課程を修了されました。
３年ぶりに来賓や在学生が参列する従来通りの式典を実施。コロナ禍の影響を受けながらもがんばり続けた３４人は、笑顔で晴れやかな姿をみせていた。これからの地域づくりの担い手になっていかれることを期待するばかりです。

## 県知事表彰伝達式

令和4年度県知事表彰（社会福祉表彰）と長野県長寿社会開発センター表彰の伝達式が11月17日、大町市の県大町合同庁舎で開かれ、高齢者の社会参加や地域福祉の向上に貢献されたとして、大北地区賛助会員4人が表彰されました。おめでとうございます！

県知事表彰
　　伊藤 甚一さん（86）大町市在住
　　丸山　 高さん（86）白馬村在住
県長寿社会開発センター表彰
　　浅原 政雄さん（90）松川村在住
　　高木 榮子さん（80）大町市在住
写真前列　左から
　　浅原さん　丸山さん　伊藤さん　高木さん
後列右　県大町保健福祉事務所　加藤浩康所長
後列左　横山忠利さん

横山さん（白馬村在住）は、信州ねんりんピック・県シニア作品展.手工芸の部で、県長寿社会開発センター理事長賞を受賞され、同日時に表彰されました。

## 表彰をいただいて

松川グループ　　浅原政雄

令和４年11月、大町合同庁舎に於いて長野県長寿社会開発センター賛助会表彰の伝達式が行われ、その名誉を頂いた者の一人です。その以前表彰者の候補と打診され、即座に不適者である事を告げ辞退を申し出ました。電話で再三のやり取りの後承諾致しました。

平成5年より3年間支部事務局に勤務し円滑な会員活動の推進に従事し、会員拡大事業にも参加し、自らも賛助会員となりました。退職後松川公民館勤務や地域史研究団体加入等10年程続いた後、松川グループの連絡員に指名されその任に当たりました。その後副会長に任命され、会務に従事しました。人格者であり業務堅実実行者の田中義和会長の一期が終わり、無理やり二期会長にお願いし引き受けて頂き、私は副会長となりました。私に会長をせよとの勧めもありましたが、松川村の実質住民になったのは昭和も終り頃で松川グループの皆さんと馴染が乏しい事、能力的にもどうかとの心配がありました。

結局会長になりましたが心配事が徐々に実現しました。松川村グループのピンチです。高田現会長、牛越総務の積極的協力を得て任期を全うする事ができました。感謝のみです。私が30年間一時は会費会員であったが、賛助会活動で充実感や満足感を得たのは全国唯一の賛助会制度を設け財団法人なる公的法人格を設定し高齢化活動の永続化を願っての事と思い今日に及んでいます。更なる発展を願い一筆認(シタタ)めました。

## 編集後記

新型コロナウイルス1日の感染状況を夜のテレビ、翌朝の新聞で再確認する日々が3年余続いている。医療機関、介護施設での多発や8波の波状発生、近隣でも感染者が発生した。5回のワクチン接種をしても入念な感染予防対策を講じてきた。感染が下火となったことで政府は感染症法上の位置付けを5月8日から5類に引き下げる見通しを発表。マスク着用も種々議論されているが、生活実態に即して自己責任で対応せざるを得ない状況。

今年の干支は卯年跳びはねる、飛躍の年と云われるが、ここにきて、生活関連の光熱費、多くの食材、農業関連資材等が軒並み大幅値上げとなり、コロナ禍以前の日常生活に戻りたい願望は叶わぬ夢なのか？